

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスかざみどり		
○保護者評価実施期間	令和8年1月15日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	令和8年1月15日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・5領域を意識しながらも、固定化された療育内容ではなく子どもたちや保護者のニーズに合わせた活動や行事などを取り入れているため、活動内容や療育内容に満足されている利用者(又は保護者)が多い。	・定期的な会議を開催し、今の利用児童や保護者のニーズは何かを職員間で共有するようにしている。 ・保護者アンケートを実施している。	・職員や保護者に向けた専門的な知識の研修などを行うことで、より充実した内容の活動や療育を行う事ができるのではないかと。 ・他事業所や幼稚園・学校など連携をとる関係機関との情報共有(ケース会議など)を積極的に開催していく。
2	・障害程度が近い利用者が多いため、同じ地域の学校や支援学校等に就学や転校することが多く、保護者へのアドバイスや見通しを伝える際に的確に伝える事ができる。	・保護者との面談は個別支援計画作成に伴う保護者面談以外にも、保護者に困りごとがあった際に開催している。 ・同じ園や学校に通う保護者同士のコミュニティを作るため、定期的に茶話会や保護者参加行事を企画し運営している。	・保護者が主体となって開催する企画を考案している。 ・実際に利用児童が通っている学校を見学、訪問することでよりよいアドバイスができるようにする。
3	・安心・安全な療育の場の提供に努めているため、今回の保護者からの意見の中に「安心して通わせることができる」といった意見が多かった。	・送迎時や支援報告書にて日々の療育内容をしっかりと伝えている。 ・療育時少しでもいつもと違う様子があった際に、職員と保護者で情報共有するため電話やLINEなどを活用している。	・安全マニュアルや各種マニュアルの見直しを定期的に行い安心安全な療育の場の提供に努めていく。 ・利用児童の気持ちに寄り添いながら、個々に合わせた関わりを職員同士で統一することで、来所時の不安をなくしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域の学校や支援学校、又は地域の子どもたちとの関わり場の提供。	・地域の子どものみならず大人の方との関わりを持つ事もできるように公共の施設に積極的に出向いているが、こちらが何かを主催することはない。	・事業所のおまつりや行事などに地域の方が参加できる機会を作っていく。 ・小学生向けの行事や企画への参加や、地域の子が集まるイベントなどに積極的に参加する。
2	・保護者の希望に沿った利用回数の確保が出来ていない。	・送迎時間がかぶってしまい、複数の場所にお迎えに行けないことや、希望曜日が重なってしまい定員数を調整しなければならない。	・利用者様が平等にサービスを利用できるように、利用の調整を行う。 ・他事業所との連携を図りながら利用の調整を行う。
3	・職員の確保や増員がなかなかできない。	・どんな事業所なのか、どんな利用児童がいるのかなどあまり知られていない。	・ホームページの見直しやSNSなどを活用しながら、まずは事業所を知ってもらえる機会を作る。 ・現在働いている職員の満足度や充実度、やる気を上げるための対策を検討していく。